

UNICEF 及び UNFPA を通じた保健医療支援の引渡式

3月2日、ジンバブエにおける新型コロナウイルス感染対策を支援するために、日本政府が支援した保健医療支援の引渡式が、当地保健・育児省より行われました。この支援は、UNICEF と UNFPA が実施するプロジェクトを通じて提供されたものです。式典には、田中大使、保健・育児副大臣、UNFPA ジンバブエ代表、UNICEF ジンバブエ代表等が出席しました。

ジンバブエでは、度重なる干ばつや不安定な経済状況など、複数の要因によって人道的な危機を迎えています。新型コロナウイルス感染拡大は、ジンバブエの弱体化している医療システムにさらなる負担をかけ、状況を悪化させました。日本が資金提供した2つのプロジェクトは、妊産婦の安全な出産に向けた機材整備や、ワクチンをジンバブエの至る所で接種できるようにすることで、保健システムの危機的な状況を改善することに貢献します。

UNFPA による「ジンバブエの新型コロナウイルス感染拡大地域における妊産婦及び新生児に対する包括的緊急医療対応強化」は、130万ドルの日本支援により、妊産婦医療サービスの提供を改善する目的で実施されました。事業では、PPE を含む感染を予防・管理するための医療機器や消耗品の調達、妊婦の搬送の遅れを減らすための新しい救急車8台の提供等が行われました。

UNICEF による「ワクチンの円滑な配備のためのコールド・チェーン緊急支援」は、66万5千ドルの日本支援により、ジンバブエのワクチンにかかるコールドチェーンシステムを強化し、「ラストワンマイルサポート」として新型コロナウイルス等のワクチンが最後の一人にまで届くようにすることを目的に実施されました。全国の州や郡のセンターに、太陽光発電対応の冷蔵庫、保冷ボックスなどのコールド・チェーン機器が提供されました。これら新しい機器により、新型コロナウイルスのワクチンだけでなく、子どもたちを小児疾患から守るための定期的な予防接種プログラムが可能になります。

どちらのプロジェクトにおいても、機器を効果的かつ長期的に使用するために、機器の操作やメンテナンスに関する医療従事者のトレーニングを行うことも重視されています。

式典において、田中大使は、日本支援により、ジンバブエの子ども、母親、家族、コミュニティが守られることを期待すると述べました。

保健・育児省、UNICEF、UNFPA の代表は、妊婦への医療サービス、ジンバブエ国民へのワクチン提供へ大きく貢献する日本の支援に対する感謝の意を述べました。

日本政府はジンバブエの保健医療分野に対する支援を重点的に行っており、この他にも、全国12の中央・地方病院の医療・病院設備を改善する380万ドルの無償資金協力等を進めています。



田中大使のスピーチ



保健・育児省副大臣スピーチ



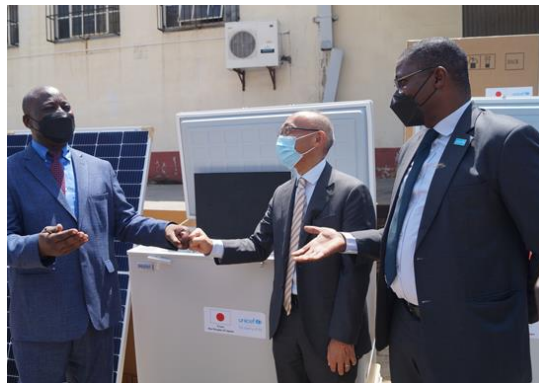
UNFPA 代表のスピーチ



UNICEF 代表のスピーチ



引渡しされた保冷ボックス



太陽光発電対応の冷蔵庫



医療器材の引渡し



救急車の引渡し



引渡された8台の救急車